

# 谷間の百合 2月

学校法人信栄学園 幼保連携型認定こども園 平幼稚園  
2021. 1. 28

2月の聖句

「愛は、すべてを完成させるきずなです。」

コロサイの信徒への手紙 3章 14節

園長 平澤 功

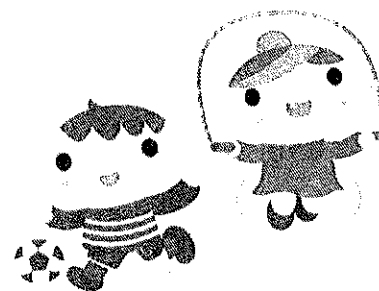
イエス様の教えに「ぶどう園の労働者のたとえ」があります。ある主人が労働者を雇うために出かけて行きました。朝6時、9時、12時、3時、夕方5時に雇われた人々がいました。働き終わって賃金を受けとる時が来ました。主人は皆に等しく1デナリオンずつ支払ったのです。そこで最初に雇われていた人たちが同じ扱いするのは不当ではないかと不満をぶちまけたのです。すると主人はこう答えたのです。「自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後のものにも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ」と。

最初に雇われた人たちの不平は無理からぬものがあったと思います。最後の人たちの12倍も働いたのだから、それに見合う報酬を期待したのは当然であると思われま。しかし、ここでイエス様が考えさせようとするのは一人ひとりの命、生活です。そして神の愛の広さ大きさです。1デナリオンとは1日生活するためのお金です。神の愛には12分の1などありません。神にとってはすべての人の命、どの人の命もかけがえのない大切なものなのです。

私たちは人の置かれた環境・状態を考えずに、働いた時間・成果だけに目を向けがちです。イエス様はそういう狭い殻から抜け出して、もっと広い世界に目を向けることを教えているのではないのでしょうか。それは神の愛の世界です。このたとえの最後は「このように、後にいる者が先になり、先にいる者が後になる」と結んでいます。神の愛に気づいた人が一番だということです。すべてのことの根底に神の愛を置くことが勧められているのです。幼稚園においても家庭においても、神の愛をもって子どもたちとの「きずな」をしっかりと結びたいと思います。

## 2月の行事予定

- 2日(火) おやこ広場
- 3日(水) 英語で遊ぼう(あい組)
- 4日(木) 避難訓練
- 9日(火) おやこ広場
- 17日(水) お弁当の日
- 18日(木) 保育発表会(あい組のみ) 10:00~
- 19日(金) 誕生日祝会
- 20日(土) 新入園児オリエンテーション  
(2021年度に入園するお子さんのみです。)



わたしは愛されていると感じ 心満たされて今を生き 明日の希望を持つために

2020年度 年主題 **こころが満たされる**

年主題聖句 **喜びと平和とであなたを満たす**

ローマ信徒への手紙 15章 13節

＜キリスト教保育・月主題 2月＞

乳児クラス (0.1.2歳児)  
月主題 「いっしょにね」

幼児クラス (3.4.5歳児)  
月主題 「つながる」

新しい年を迎えたかと思っていたら、早いものでもう1月も終わりですね。昨年から続く「コロナ禍」には終わりが見えない毎日で、子ども達の「安心」「安全」をどのように「予防」し子ども達を「守る」か、日々職員も考えながら保育を進めています。今回は乳児クラスの朝の様子をお伝えしようと思います。

♪ ち~さいこどものおいのりを~  
おきき~くださいかみさ~ま!! ♪

元気に登園し、遊び始めるお子さんと、休み前の生活リズムに戻るまで「心の不安」を感じ、泣きながら登園するお子さんもいましたが、担任の先生に見守られながら少しずつ生活リズムを取り戻していきました。

ある朝、乳児クラスの朝がいつもと違っていました。2学期までは、おやつを食べた後に、にじ組のお部屋に集まり、お礼拝をしていましたが、1月に入って急激に増えつつあるコロナの「感染予防」ということで、3学期から各お部屋から出て、たね組、ひつじ組、にじ組がそれぞれ見える場所(クラス前の廊下)に集まり、お礼拝が始まりました。電子ピアノの音が聞こえると、ひつじ組さん、にじ組さんは、お手てを組んで目を閉じ、お祈りの準備を始めました。その姿をたね組の子ども達は、見ていたり、ピアノの音に興味を持ち弾いている先生を、見ている子ども達の姿がありました。(数名、手を組む、お子さんの姿もありました。)

先生が「神様、今日も新しい朝を迎えられたことに感謝します。」「みんなが元気に幼稚園にこれたことを嬉しく思います。」「風邪をひいてお休みしているお友だちが早く元気になれるように」「今日も1日、お友だちと仲良く遊べますように! 神様、守ってください。」「

「このお祈りをイエス様のお名前によってお願いします。」と話す、みんなで「アーメン」と言葉にしてお祈りする姿がありました。

この子ども達の姿を神様は見ている、微笑みながら頷いているのではないかなあ~と思いました。

小さいお子さんは、興味、関心がいっぱいです。周りの様子を感じながら、「やってみよう」という気持ちも育ちます。今回の礼拝の「手を組む」姿は子ども達が先生方の姿を見て覚えていきました。讃美歌も先生方や幼児クラスのお兄さん、お姉さんが歌っている姿を見て、心地よく聞こえ「歌って見たい」という気持ちが育ってきたからこそ、「リズム」を知り「歌う」「楽しい」を、表現し始めているのだと思います。言葉にできないお子さんは、体を右から左と重心を動かしながら、参加している姿も微笑ましく感じました。

入園、進級当初、新しい環境、友だち、先生、に慣れるまでどれほどの時間がかかったことでしょうか。たね組さんは、生まれて数ヶ月からの集団生活、ひつじ組さん、にじ組さんでは新入園児と進級児と一緒に、みんなが「緊張」と「不安」の毎日でした。泣くことで体力を使い、体調の崩れに繋がった日々でした。3学期になり、体力もだいぶつきました。それぞれの年齢のなかで、「見て」「聞いて」「考える」事がこんなに小さい時から知らず知らず「学び」に繋がっていることを改めて感じています。クラスでは今、この時期にしか出来ない学びを、先生方はコロナ禍の中でも、探しながら保育を進めています。これからもご家庭と連携しながら、お子さんの成長を見守っていただきたいと思います。日々の生活に忙しい毎日だとは思いますが、保護者の皆様もお子さんの成長を感じ取って頂き、「進級したら、こんな所が育ってほしいなあ~!」なんて、願いを考えて見てはいかがでしょうか?

大人にとって、お子さんの笑顔は何よりの”ビタミン剤”!!

「明日も素敵な1日でありますように・・・」



主任保育教諭



佐藤光子

